



子どもの運動・スポーツ実施とジェンダー ～高頻度(週7回以上)実施者の特徴～

愛知東邦大学 経営学部
准教授 大勝 志津穂

これまでの「4～9歳/10代のスポーツライフに関する調査」において、実施頻度や実施種目の男女による違いが明らかにされてきた。本稿では、運動・スポーツ実施頻度群のうち、週7回以上の実施者である高頻度群に着目し、未就学児から高校生までの各ステージにおいて、運動・スポーツ実施に関する内容に男女による違いがあるか否かを検討した。

B-1 各ステージの実施頻度群

まず、表B-1に各ステージの実施頻度群の割合を性別に示した。統計的に有意な差がみられたステージは、小学3・4年、小学5・6年、高校生であった。これらのステージでは、高頻度群において男子の割合が高く、低頻度群

において女子の割合が高い状況が特徴としてみられた。また、高校生では女子の非実施群の割合が2割を超え、男子との違いがみられた。

【表B-1】 運動・スポーツ実施頻度群(ステージ別・性別)

学校期	性別	n	非実施群	低頻度群	中頻度群	高頻度群	検定統計量
			n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	
未就学児	男子	151	6 (4.0)	31 (20.5)	50 (33.1)	64 (42.4)	χ^2 値=3.531、df=3、n.s
	女子	138	8 (5.8)	28 (20.3)	33 (23.9)	69 (50.0)	
小学1・2年	男子	204	8 (3.9)	29 (14.2)	60 (29.4)	107 (52.5)	χ^2 値=1.493、df=3、n.s
	女子	177	9 (5.1)	31 (17.5)	45 (25.4)	92 (52.0)	
小学3・4年	男子	218	7 (3.2)	20 (9.2)	67 (30.7)	124 (56.9)	χ^2 値=14.325、df=3、p<0.01
	女子	232	2 (0.9)	41 (17.7)	87 (37.5)	102 (44.0)	
小学5・6年	男子	157	2 (1.3)	12 (7.6)	62 (39.5)	81 (51.6)	χ^2 値=15.471、df=3、p<0.01
	女子	150	3 (2.0)	32 (21.3)	63 (42.0)	52 (34.7)	
中学生	男子	281	18 (6.4)	34 (12.1)	89 (31.7)	140 (49.8)	χ^2 値=7.695、df=3、n.s
	女子	234	15 (6.4)	49 (20.9)	70 (29.9)	100 (42.7)	
高校生	男子	274	31 (11.3)	46 (16.8)	77 (28.1)	120 (43.8)	χ^2 値=25.590、df=3、p<0.001
	女子	259	58 (22.4)	68 (26.3)	60 (23.2)	73 (28.2)	

資料：笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2015、「10代のスポーツライフに関する調査」2015

B-2 運動・スポーツ実施種目

各ステージの高頻度群の実施種目（年1回以上の実施種目）上位20種目について、男女の実施率の差（男子の実施率－女子の実施率）を算出した（表B-2）。プラスの値が男子の実施率が高い種目、マイナスの値が女子の実施率が高い種目を示し、絶対値の大きさは男女の実施率の差の大きさを表す。男女差が±10.0以上ある種目の数をみると、未就学児4種目、小学1・2年9種目、小学3・4年11種目、小学5・6年12種目、中学生12種目、高校生10種目となっており、小学生以降で男女による実施種目に違いがみられる実態が明らかとなった。

男女差に特徴のある種目について、ステージごとに男女差の傾向をみた。「サッカー」は、未就学児から高校生まで全てのステージにおいて、10位以内に入る実施率が高い種目であるが、常に男女差が大きく、男子の実施率が高い種目である。「野球」は、高校生では10位以内に入るが、それ以外のステージでは全体の実施率は低い。しかし、男女差は未就学児から大きく、男子の実施率が高い種目としてあげられる。

「バスケットボール」は、小学5・6年から高校生にかけて全体の実施率が高くなる。バスケットボールは、小学生ではミニバスケットボールがあり、女子の活動も盛んな球技種目である。また、中学生女子や高校生女子の学校部活動加盟率は高く、女子の実施率が高い球技種目のひとつであるが、その種目においても男女の実施率に10ポイント以上の差がみられた。

「ドッジボール」は、小学3・4年、小学5・6年において実施率が高い球技種目であり、男女差は小学5・6年で小さくなる。つまり、ドッジボールは小学校高学年において、男女に関係なく実施される球技種目であるといえる。「鉄棒」「なわとび」は、未就学児から小学生において、全体の実施率が高い種目であると同時に、女子の実施率が高い種目である。つまり、高頻度群の女子においても、これらの運動あそび系の種目を定期的に実施している状況が明らかとなった。

以上のように、球技種目では小学校高学年の「ドッジボール」を除くと、男子の実施率が高いことがわかる。つまり、高頻度群に属する女子においても「走る」「投げる」「跳ぶ」などの動作を同時に行うスポーツ系球技種目は敬遠される様子が見え、女子全体にスポーツ離れが生じている可能性が示唆された。

しかしながら、平成26（2014）年度「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」では、体育の授業においてサッカーやバレーボールなどのボールを使う種目を、もう一度授業でやりたいと回答する女子が多くみられる。どのような理由で再度実施したいと回答しているのかは不明であるが、潜在的に実施したいと思う女子が多い状況を示唆している。一方、球技種目を体育の授業以外で行う割合は、小学5年生では男子が約50%であるのに対し、女子は約25%、中学2年生では男子が約44%であるのに対し、女子は約25%と違いがある。すなわち、潜在的に実施したいと思う女子が、球技種目を実施できる場が少ない状況が予想される。スポーツ系球技種目の楽しさを体験できる場や、やってみたいと思ったときに実施できる環境があれば、女子でもスポーツ系球技種目を実施する割合が高くなるのではないだろうか。

スポーツの「楽しさ」の側面からいうと、近年では多くのスポーツ種目において、子どもがその種目の特性を楽しむ方法が提案され、年齢に応じたルールが適用がなされている。例えば、テニスでは子どもでもラリーが続くように、ボールやコートが大きさが工夫されたり、サッカーでは、多くの子どもがボールに触れられるようにピッチの大きさや人数が工夫されたりしている。特に小学生は、男女に関係なく一緒に実施できる年代でもあるので、それぞれの種目も「楽しさ」を経験できる場が増加すれば、男子だけでなく、女子においてもスポーツ系球技種目の実施者が増える可能性がある。

【表B-2】 高頻度群の上位20種目の実施率と男女差(ステージ別・性別)

		未就学児				
全体 順位	実施種目	男子(n=64) n(%)	女子(n=69) n(%)	全体(n=133) n(%)	差 順位	実施率の差 (男子-女子)
1	おにごっこ	49 (76.6)	55 (79.7)	104 (78.2)		-3.1
2	ぶらんこ	41 (64.1)	51 (73.9)	92 (69.2)		-9.9
3	かくれんぼ	42 (65.6)	43 (62.3)	85 (63.9)		3.3
4	自転車あそび	37 (57.8)	41 (59.4)	78 (58.6)		-1.6
5	かけっこ	35 (54.7)	42 (60.9)	77 (57.9)		-6.2
6	鉄棒	26 (40.6)	35 (50.7)	61 (45.9)	④	-10.1
7	なわとび(長なわとびを含む)	25 (39.1)	29 (42.0)	54 (40.6)		-3.0
8	水泳(スイミング)	23 (35.9)	22 (31.9)	45 (33.8)		4.1
9	サッカー	33 (51.6)	10 (14.5)	43 (32.3)	①	37.1
10	体操(軽い体操・ラジオ体操など)	17 (26.6)	17 (24.6)	34 (25.6)		1.9
11	キックボード	13 (20.3)	13 (18.8)	26 (19.5)		1.5
12	海水浴	10 (15.6)	12 (17.4)	22 (16.5)		-1.8
13	キャッチボール	13 (20.3)	8 (11.6)	21 (15.8)		8.7
14	そり	10 (15.6)	10 (14.5)	20 (15.0)		1.1
15	木登り	9 (14.1)	10 (14.5)	19 (14.3)		-0.4
16	フィールドアスレチック	7 (10.9)	12 (17.4)	19 (14.3)		-6.5
17	ウォーキング	9 (14.1)	9 (13.0)	18 (13.5)		1.0
18	ドッジボール	11 (17.2)	4 (5.8)	15 (11.3)	③	11.4
19	サイクリング	8 (12.5)	7 (10.1)	15 (11.3)		2.4
20	野球	12 (18.8)	1 (1.4)	13 (9.8)	②	17.3

		小学1・2年				
全体 順位	実施種目	男子(n=107) n(%)	女子(n=92) n(%)	全体(n=199) n(%)	差 順位	実施率の差 (男子-女子)
1	おにごっこ	93 (86.9)	75 (81.5)	168 (84.4)		5.4
2	自転車あそび	74 (69.2)	58 (63.0)	132 (66.3)		6.1
3	ぶらんこ	62 (57.9)	70 (76.1)	132 (66.3)	③	-18.1
4	なわとび(長なわとびを含む)	62 (57.9)	66 (71.7)	128 (64.3)	⑤	-13.8
5	鉄棒	60 (56.1)	63 (68.5)	123 (61.8)		-12.4
6	かくれんぼ	65 (60.7)	57 (62.0)	122 (61.3)		-1.2
7	水泳(スイミング)	66 (61.7)	45 (48.9)	111 (55.8)		12.8
8	かけっこ	54 (50.5)	53 (57.6)	107 (53.8)		-7.1
9	ドッジボール	62 (57.9)	40 (43.5)	102 (51.3)	④	14.5
10	サッカー	75 (70.1)	18 (19.6)	93 (46.7)	①	50.5
11	体操(軽い体操・ラジオ体操など)	31 (29.0)	25 (27.2)	56 (28.1)		1.8
12	キックボード	25 (23.4)	19 (20.7)	44 (22.1)		2.7
13	サイクリング	22 (20.6)	22 (23.9)	44 (22.1)		-3.4
14	キャッチボール	29 (27.1)	14 (15.2)	43 (21.6)		11.9
15	海水浴	22 (20.6)	18 (19.6)	40 (20.1)		1.0
16	木登り	27 (25.2)	12 (13.0)	39 (19.6)		12.2
17	バドミントン	17 (15.9)	21 (22.8)	38 (19.1)		-6.9
18	一輪車	7 (6.5)	30 (32.6)	37 (18.6)	②	-26.1
19	釣り	22 (20.6)	13 (14.1)	35 (17.6)		6.4
20	ボウリング	21 (19.6)	11 (12.0)	32 (16.1)		7.7
	フィールドアスレチック	18 (16.8)	14 (15.2)	32 (16.1)		1.6

		小学3・4年				
全体 順位	実施種目	男子(n=124) n(%)	女子(n=102) n(%)	全体(n=226) n(%)	差 順位	実施率の差 (男子-女子)
1	おにごっこ	99 (79.8)	86 (84.3)	185 (81.9)		-4.5
2	ドッジボール	96 (77.4)	62 (60.8)	158 (69.9)		16.6
3	自転車あそび	73 (58.9)	72 (70.6)	145 (64.2)		-11.7
4	なわとび(長なわとびを含む)	65 (52.4)	75 (73.5)	140 (61.9)		-21.1
5	ぶらんこ	65 (52.4)	72 (70.6)	137 (60.6)		-18.2
6	かくれんぼ	67 (54.0)	68 (66.7)	135 (59.7)		-12.6
7	鉄棒	60 (48.4)	74 (72.5)	134 (59.3)	⑤	-24.2
8	水泳(スイミング)	71 (57.3)	56 (54.9)	127 (56.2)		2.4
9	かけっこ	54 (43.5)	52 (51.0)	106 (46.9)		-7.4
10	サッカー	85 (68.5)	17 (16.7)	102 (45.1)	①	51.9
11	キャッチボール	51 (41.1)	14 (13.7)	65 (28.8)	③	27.4
12	バドミントン	31 (25.0)	30 (29.4)	61 (27.0)		-4.4
13	キックボード	35 (28.2)	24 (23.5)	59 (26.1)		4.7
14	体操(軽い体操・ラジオ体操など)	30 (24.2)	26 (25.5)	56 (24.8)		-1.3
15	一輪車	9 (7.3)	44 (43.1)	53 (23.5)	②	-35.9
16	木登り	33 (26.6)	15 (14.7)	48 (21.2)		11.9
17	野球	40 (32.3)	7 (6.9)	47 (20.8)	④	25.4
18	サイクリング	25 (20.2)	21 (20.6)	46 (20.4)		-0.4
19	海水浴	28 (22.6)	15 (14.7)	43 (19.0)		7.9
20	バスケットボール	28 (22.6)	14 (13.7)	42 (18.6)		8.9

小学5・6年						
全体 順位	実施種目	男子(n=81)	女子(n=52)	全体(n=133)	差 順位	実施率の差 (男子-女子)
		n(%)	n(%)	n(%)		
1	おにごっこ	62 (76.5)	47 (90.4)	109 (82.0)		-13.8
2	ドッジボール	63 (77.8)	39 (75.0)	102 (76.7)		2.8
3	なわとび(長なわとびを含む)	48 (59.3)	44 (84.6)	92 (69.2)		-25.4
4	自転車あそび	54 (66.7)	34 (65.4)	88 (66.2)		1.3
5	サッカー	67 (82.7)	19 (36.5)	86 (64.7)	②	46.2
6	ぶらんこ	40 (49.4)	44 (84.6)	84 (63.2)	③	-35.2
7	鉄棒	40 (49.4)	38 (73.1)	78 (58.6)		-23.7
8	かくれんぼ	43 (53.1)	34 (65.4)	77 (57.9)		-12.3
9	水泳(スイミング)	42 (51.9)	32 (61.5)	74 (55.6)		-9.7
10	かけっこ	40 (49.4)	28 (53.8)	68 (51.1)		-4.5
11	キャッチボール	48 (59.3)	15 (28.8)	63 (47.4)	④	30.4
12	バスケットボール	42 (51.9)	20 (38.5)	62 (46.6)		13.4
13	バドミントン	27 (33.3)	32 (61.5)	59 (44.4)	⑤	-28.2
14	体操(軽い体操・ラジオ体操など)	33 (40.7)	23 (44.2)	56 (42.1)		-3.5
15	野球	47 (58.0)	6 (11.5)	53 (39.8)	①	46.5
16	ジョギング・ランニング	37 (45.7)	13 (25.0)	50 (37.6)		20.7
17	サイクリング	28 (34.6)	19 (36.5)	47 (35.3)		-2.0
18	卓球	30 (37.0)	15 (28.8)	45 (33.8)		8.2
19	カンパケリ	32 (39.5)	12 (23.1)	44 (33.1)		16.4
20	釣り	25 (30.9)	12 (23.1)	37 (27.8)		7.8

中学生						
全体 順位	実施種目	男子(n=140)	女子(n=100)	全体(n=240)	差 順位	実施率の差 (男子-女子)
		n(%)	n(%)	n(%)		
1	ジョギング・ランニング	66 (47.1)	49 (49.0)	115 (47.9)		-1.9
2	サッカー	90 (64.3)	20 (20.0)	110 (45.8)	①	44.3
3	おにごっこ	58 (41.4)	50 (50.0)	108 (45.0)		-8.6
4	バスケットボール	74 (52.9)	32 (32.0)	106 (44.2)	⑤	20.9
5	なわとび(長なわとびを含む)	43 (30.7)	52 (52.0)	95 (39.6)	③	-21.3
6	筋力トレーニング	50 (35.7)	43 (43.0)	93 (38.8)		-7.3
7	バドミントン	46 (32.9)	38 (38.0)	84 (35.0)		-5.1
8	水泳(スイミング)	51 (36.4)	33 (33.0)	84 (35.0)		3.4
9	ドッジボール	48 (34.3)	35 (35.0)	83 (34.6)		-0.7
10	キャッチボール	54 (38.6)	25 (25.0)	79 (32.9)		13.6
11	ぶらんこ	32 (22.9)	44 (44.0)	76 (31.7)	④	-21.1
12	卓球	49 (35.0)	21 (21.0)	70 (29.2)		14.0
13	野球	63 (45.0)	6 (6.0)	69 (28.8)	②	39.0
14	バレーボール	34 (24.3)	35 (35.0)	69 (28.8)		-10.7
15	体操(軽い体操・ラジオ体操など)	31 (22.1)	34 (34.0)	65 (27.1)		-11.9
16	鉄棒	25 (17.9)	35 (35.0)	60 (25.0)		-17.1
17	かくれんぼ	28 (20.0)	31 (31.0)	59 (24.6)		-11.0
18	陸上競技	36 (25.7)	21 (21.0)	57 (23.8)		4.7
19	ウォーキング	27 (19.3)	28 (28.0)	55 (22.9)		-8.7
20	ボウリング	38 (27.1)	16 (16.0)	54 (22.5)		11.1
	自転車あそび	27 (19.3)	27 (27.0)	54 (22.5)		-7.7

高校生						
全体 順位	実施種目	男子(n=120)	女子(n=73)	全体(n=193)	差 順位	実施率の差 (男子-女子)
		n(%)	n(%)	n(%)		
1	ジョギング・ランニング	55 (45.8)	32 (43.8)	87 (45.1)		2.0
2	筋力トレーニング	55 (45.8)	31 (42.5)	86 (44.6)		3.4
3	サッカー	73 (60.8)	6 (8.2)	79 (40.9)	①	52.6
4	バスケットボール	61 (50.8)	18 (24.7)	79 (40.9)	③	26.2
5	バドミントン	35 (29.2)	26 (35.6)	61 (31.6)		-6.4
6	バレーボール	34 (28.3)	23 (31.5)	57 (29.5)		-3.2
7	卓球	41 (34.2)	13 (17.8)	54 (28.0)		16.4
8	キャッチボール	38 (31.7)	10 (13.7)	48 (24.9)	④	18.0
9	ウォーキング	22 (18.3)	26 (35.6)	48 (24.9)		-17.3
10	野球	42 (35.0)	2 (2.7)	44 (22.8)	②	32.3
11	ドッジボール	28 (23.3)	16 (21.9)	44 (22.8)		1.4
12	体操(軽い体操・ラジオ体操など)	22 (18.3)	21 (28.8)	43 (22.3)		-10.4
13	おにごっこ	26 (21.7)	16 (21.9)	42 (21.8)		-0.3
14	水泳(スイミング)	30 (25.0)	10 (13.7)	40 (20.7)		11.3
15	なわとび(長なわとびを含む)	12 (10.0)	20 (27.4)	32 (16.6)	⑤	-17.4
16	ボウリング	22 (18.3)	8 (11.0)	30 (15.5)		7.4
17	ソフトボール	22 (18.3)	7 (9.6)	29 (15.0)		8.7
18	ソフトテニス(軟式)	16 (13.3)	13 (17.8)	29 (15.0)		-4.5
19	サイクリング	20 (16.7)	9 (12.3)	29 (15.0)		4.3
20	3on3	22 (18.3)	5 (6.8)	27 (14.0)		11.5
	テニス(硬式)	18 (15.0)	9 (12.3)	27 (14.0)		2.7

注) : 実施率の差±10.0以上の値

資料: 笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2015、「10代のスポーツライフに関する調査」2015

B-3 スポーツクラブ・運動部との関連

表B-3に現在の運動・スポーツの活動環境をステージ別・性別に示した。運動・スポーツの活動環境として、スポーツクラブ・運動部の加入状況についての回答を、幼稚園や保育園、学校などの組織で活動している場合を「幼保・学校」、民間団体や地域のクラブ、少年団などの集団で活動している場合を「民間・地域」、「幼保・学校」「民間・地域」の両方で活動している場合を「両方」、どこの集団にも所属していない場合を「無所属」に分類し、各ステージにおける男女の違いを分析した。

その結果、女子をみると小学1・2年、小学3・4年で「無所属」が約半数を占め、小学5・6年では約3割と少なくなるものの、男子の「無所属」の割合と比較すると大きな差がみられた。一方、男子では小学3・4年、小学5・6年

において「民間・地域」で活動する割合が高く「両方」を合わせると、約7割が民間団体や地域のクラブで活動している実態が明らかとなった。中学生男女や高校生男子の「幼保・学校」と「両方」を合わせると、8割以上が学校部活動で活動していると推測され、このステージにおいては学校部活動が活動の主要な場になっていることが示唆された。しかし、高校生女子では「幼保・学校」と「両方」を合わせた割合は7割であり、男子の9割と比べると低く、また「無所属」の割合が3割程度と高くなる。つまり、男子では高校生でも学校部活動が活動の主要な場として機能するものの、女子では学校部活動の機能が低下し、どこにも属さず日常的な活動を行う様子が見えられた。

【表B-3】 加入しているスポーツクラブ・運動部(ステージ別・性別)

学校期	性別 (n)	n(%)			
		幼保・学校	民間・地域	両方	無所属
未就学児	男子 (n=64)	0 (0.0)	18 (28.1)	1 (1.6)	45 (70.3)
	女子 (n=68)	3 (4.4)	16 (23.5)	2 (2.9)	47 (69.1)
小学1・2年	男子 (n=106)	4 (3.8)	62 (58.5)	4 (3.8)	36 (34.0)
	女子 (n=91)	1 (1.1)	43 (47.3)	0 (0.0)	47 (51.6)
小学3・4年	男子 (n=124)	10 (8.1)	68 (54.8)	16 (12.9)	30 (24.2)
	女子 (n=102)	14 (13.7)	35 (34.3)	7 (6.9)	46 (45.1)
小学5・6年	男子 (n=81)	11 (13.6)	39 (48.1)	20 (24.7)	11 (13.6)
	女子 (n=52)	12 (23.1)	14 (26.9)	10 (19.2)	16 (30.8)
中学生	男子 (n=140)	105 (75.0)	5 (3.6)	24 (17.1)	6 (4.3)
	女子 (n=99)	70 (70.7)	7 (7.1)	13 (13.1)	9 (9.1)
高校生	男子 (n=120)	92 (76.7)	3 (2.5)	11 (9.2)	14 (11.7)
	女子 (n=73)	48 (65.8)	0 (0.0)	4 (5.5)	21 (28.8)

資料：笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2015、「10代のスポーツライフに関する調査」2015

B-4 運動・スポーツ・運動あそびの好き嫌い

各ステージで男女によって運動・スポーツ・運動あそびの好き嫌いに違いがあるか否かを分析した(表B-4)。高頻度群であるため「嫌い」の割合が少なく、男女による傾向の違いがみられた。

「好き」の割合では、小学1・2年女子において男子より高い値を示したが、それ以外のステージでは男子の割合が高かった。小学3・4年、小学5・6年では「好き」の男女差は大きくなり、中学生でその差は縮まるものの、高校生ではまた大きく開く。一方、「嫌い」の割合は全体的に少ないものの「どちらかという嫌い」の割合と合わせ

ると、女子の小学3・4年、小学5・6年、高校生で1割前後となる。同じステージの男子の割合が、0～2%未満である状況と比較すると、女子の1割以上がこのカテゴリーに存在する結果は興味深い。

「嫌い」「どちらかという嫌い」の子どもが実施する種目をみると、「ぶらんこ」「おにごっこ」「かくれんぼ」「なわとび」を多くの子どもが実施しており、特に小学生年代ではこれら運動・あそび系種目を多く実施している。

高峰(2013)によると、高頻度群で無所属の子どもの運動・スポーツの実施理由として、「試合で勝ちたいから」

「うまくなりたいから」「目標を達成したいから」の割合が低く、「楽しいから」「からだを動かしたいから」の割合が高いという結果が示されている。すなわち、高頻度群でも「ガチ」でスポーツをすることを敬遠する子どもたちがおり、友達同士で楽しみながら活動できる「あそび」の要素が高い運動を頻繁に行っている様子が示唆される。

近年では「ゆるスポ」といわれる、お年寄りでも障がい者でも運動嫌いな人でも参加できるような「ゆるっとした

スポーツ」のあり方を提唱する団体も出現している。今後「ガチなスポーツ」「ゆるいスポーツ」など様々なスポーツとの関わり方が増えれば、生涯にわたってスポーツに関わる人も増え、スポーツ嫌いの割合も減るのではないだろうか。そのような状況になった時、運動やスポーツの好き嫌いの実施頻度や種目との関係が変化する可能性もあるだろう。

【表B-4】運動・スポーツ・運動あそびの好き嫌い(ステージ別・性別)

学校期	性別 (n)	n(%)			
		好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い
未就学児	男子 (n=64)	52 (81.3)	12 (18.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
	女子 (n=69)	51 (73.9)	16 (23.2)	1 (1.4)	1 (1.4)
小学1・2年	男子 (n=105)	75 (71.4)	24 (22.9)	5 (4.8)	1 (1.0)
	女子 (n=92)	69 (75.0)	20 (21.7)	3 (3.3)	0 (0.0)
小学3・4年	男子 (n=124)	100 (80.6)	22 (17.7)	1 (0.8)	1 (0.8)
	女子 (n=101)	69 (68.3)	22 (21.8)	9 (8.9)	1 (1.0)
小学5・6年	男子 (n=81)	66 (81.5)	14 (17.3)	1 (1.2)	0 (0.0)
	女子 (n=52)	34 (65.4)	11 (21.2)	5 (9.6)	2 (3.8)
中学生	男子 (n=140)	108 (77.1)	24 (17.1)	7 (5.0)	1 (0.7)
	女子 (n=100)	70 (70.0)	25 (25.0)	3 (3.0)	2 (2.0)
高校生	男子 (n=119)	93 (78.2)	26 (21.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
	女子 (n=72)	43 (59.7)	19 (26.4)	8 (11.1)	2 (2.8)

資料：笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2015、「10代のスポーツライフに関する調査」2015

B-5 まとめ

本稿では、週7回以上運動やスポーツ、あそびなどの身体を動かす活動を行う、高頻度群の子どもたちの運動・スポーツの状況を分析した。実施種目では、未就学児・小学生の上位には、女子の実施率が高い「おにごっこ」「なわとび」「鉄棒」などの運動・あそび系種目があり、中学生や高校生の上位には、男子の実施率が高い「サッカー」「バスケットボール」などのスポーツ系球技種目があがった。すなわち、各ステージにおいて年齢による実施種目に違いはあるものの、高頻度群に属する子どもにおいても実施種目により男女の違いがあり、男子はスポーツ系、女子は運動・あそび系を行う実態が明らか

となった。また、女子においてはどの集団にも属さない子どもが男子と比較して多く、組織的なスポーツ活動というよりも、仲間集団で身体を動かす運動・あそび系の活動を行う実態が高頻度群にもみられた。つまり、女子のスポーツ離れは、非実施者や低頻度群にみられる現象だけではなく、高頻度群においても生じている可能性が明らかとなった。しかしながら、女子においては潜在的に球技種目を実施したいと思っている割合が高い状況も推測され、学校体育も含めた子ども時代の運動・スポーツのあり方を捉え直す必要があると考えられた。

<参考文献>

- 文部科学省：平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果，102-167，2014
 笹川スポーツ財団：子どものスポーツライフ・データ2012 -4～9歳のスポーツライフに関する調査報告書-，48-51，2012
 笹川スポーツ財団：子どものスポーツライフ・データ2012 -4～9歳のスポーツライフに関する調査報告書-，59-60，2012
 笹川スポーツ財団：子どものスポーツライフ・データ2010 -4～9歳のスポーツライフに関する調査報告書-，48-51，2010
 笹川スポーツ財団：青少年のスポーツライフ・データ2010 -10代のスポーツライフに関する調査報告書-，82-84，2010
 高峰修：青少年にみる組織的スポーツへの参加動機の動向，青少年のスポーツライフ・データ2013，18-21，2013